

健康一口メモ

仙台市医師会
広報委員
福壽 岳雄

人生会議、ACPという言葉があります。ACPはアドバンス・ケア・プランニング(Advance Care Planning)の略で、昨年末から日本語では「人生会議」と訳されています。その定義は「将来の意思決定能力の低下に備えて、患者さまやそのご家族とケア全体の目標や、具体的な治療・療養について話し合う過程(プロセス)」とされています。

突然に何の話かと思われそうですが、治療回復が見込めないような病気などの際に、人生の終末期を考えた話し合いのことです。話し合い、あるいは「会議」という言葉のごとく、自分(本人)の意思を尊重しつつ、ご家族や医療に携わる医師、看護師、ケアマネジャーも加わったの打ち合わせのようなものです。

似たものに、万が一のときのためにあらかじめ自分の意思表示を記しておく「事前指示書(エンディングノート)」があります。しばしば混同されるかもしれませんが、事前指示書はあくまで個人が自分で自分のことについて用意しておく、いわば遺言書のようなものです。パスケースなどに入れておく臓器移植用のドナーカード

人生の終末期

も事前指示の一種です。

高齢化が進む現代において、しばしば高齢者の医療や終末期の迎え方が話題になります。何とかして命を延ばす医療が、ご本人や周囲の方々、社会にとっても負担となることもあり、どのように生きるか命の質が重要視されています。

いつかは自分も人生の最期の時を迎えることは、避けようのない事実であり、そのときの迎え方を考えておくのに早すぎることはないと言われています。終末期を考えることは決して高齢の方、闘病されている方だけの問題ではなく、また一度示した考えを後日に変更することももちろん十分にあり得ることです。

最近は終末期をテーマにした本やインターネット記事、講演会も多く見られるようになりました。少しのこと、例えばこんなコラムをきっかけに、将来について考えることもいかがでしょうか。

「ふくじゅ草クリニック

／青葉区八幡



うれしいこと、 一緒に。

杜の都信用金庫は
「地域社会発展のために設立された地元の信用金庫」
としての原点に立ち返り、
お客さまの夢の実現のお手伝いができるよう、
“うれしいこと、一緒に。”を合言葉に、
より良い金融サービスの提供に努めてまいります。

Shinking with you.

 杜の都信用金庫



杜の都信用金庫